

## 2. 骨シンチグラフィによる原発性肺癌の骨転移に関する検討

浜田 麻美 島袋 国定 坂田 博道  
 篠原 慎治 (鹿大・放)  
 中條 政敬 (国立都城・放)  
 城野 和雄 (県立鹿屋・放)

われわれは原発性肺癌90例の骨シンチグラフィについて検討を行なったので報告した。1)原発性肺癌における骨シンチの陽性率は、90例中48例(53%)であった。2)細織型別には差はみられなかった。3)病期別陽性率は、I期31%、II期38%、III期54%、IV期86%であった。4)骨転移の部位別頻度は肋骨が48例中29例(60%)と最も高く、次いで腰椎、胸椎、骨盤骨の順に多くみられた。5)骨X線検査との比較では、骨シンチ陽性であった44例中20例(45%)が骨X線検査では陰性で、一方骨X線検査のみ陽性のものは1例もみられなかった。

骨シンチグラフィは原発性肺癌の骨転移巣の早期発見に有用であった。

## 3. $^{99m}\text{Tc}$ -Hydroxymethylene diphosphonate による骨シンチグラフィ—— $^{99m}\text{Tc}$ -MDP との比較検討——

本田 浩 鷺海 良彦 鴨井 逸馬  
 一矢 有一 和田 誠 松浦 啓一  
 (九大・放)

同時期に検査した  $^{99m}\text{Tc}$ -HMDP による骨シンチ57例を  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による49例と比較することにより  $^{99m}\text{Tc}$ -HMDP の臨床評価を行なった。検査にあたり全例副作用はなかった。また、検討はシンチグラムおよび収録データの両者について行なった。

シンチグラムは、blindで読影し、その画質を3段階に分類し、検査時間別に両薬剤で比較した。その結果、統計学的に有意の差をもって HMDP の方が優れていた。また、検査時間別の検討では3時間以後の  $^{99m}\text{Tc}$ -HMDP のシンチグラムは、ほぼ満足できるものであり、 $^{99m}\text{Tc}$  の減衰、検査時間の短縮を加味すると3時間の撮像が適当と考えられた。収録データによる HMDP と MDP の正常骨/軟部組織比の比較では、HMDP の方がやや高い傾向があったが統計学的には両者に有意の差はみられなかった。

以上の結果より、 $^{99m}\text{Tc}$ -HMDP は bone seeker とし

て優れたものであり、十分に臨床利用できるものであった。

## 4. 骨スキャンによる骨外集積例について

森口 義博 大石 倫子 白井 茂夫  
 西村 浩 村上 秀典 兼行 由美  
 鷺淵 雅男 菊池 茂 森田誠一郎  
 大竹 久 (久大・放)

現在  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による骨外集積例は、乳癌症例を除けばまれなものである。今回われわれは1979年1月より1981年1月までの2年間に久留米大学 RI 施設においておこなわれた骨シンチグラフィ1277例のうち、12例に骨外集積を認めた。12例のうち10例に乳房への集積を認めた。いずれも原発性あるいは転移性乳癌の症例で、そのうち両側へ集積したもの3例、患側のみ集積を示したもの3例、乳房切断術後に健側へ集積したもの4例であった。残りの2例のうち、1例は睾丸腫瘍の後腹膜転移で転移巣に集積を認めた。最後の Chondromyxoid fibroma の症例では右第4中手骨に集積を認めた。

## 5. $^{99m}\text{Tc}$ -MDP の骨外集積例の検討

西川 清安 安森弘太郎 桂木 誠  
 渡辺 克司 (宮医大・放)

今回、われわれは1977年11月から1981年1月まで  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP を用いて骨シンチグラフィを行なった834例中肺癌7例、乳癌1例、唾液腺腫瘍1例、縦隔腫瘍1例、軟部組織腫瘍1例、神経芽腫1例の計12例に骨外集積を認めた。そのうち、肺癌2例、乳癌1例、縦隔腫瘍1例はX線学的検査石灰化像を見とめた。しかし、認めなかった例もあり、MDP の骨外集積に石灰化の関連性はあるも、それだけでは説明がつかなかった。

また、悪性腫瘍は12例中8例であり、悪性腫瘍中線癌の占める割合は組織が明確であるものを対象とし、7例中5例であった。